

11月24日(月・振休)から令和8年1月5日(月)まで 照明工事のため**村立図書館**が**長期休館**します

休館期間でも、下記の日時は**図書館エントランスのみ開放**し、利用者登録や新聞の閲覧などができるほか、予約資料に限り貸し出しを行います。また、東海村電子図書館と各コミュニティセンターの図書コーナーは通常どおり利用できますので、ご活用ください。



エントランス開放日時▼11月28日(金)から12月27日(土)まで(日・月曜日を除く)
の午前9時～午後5時

エントランス開放で利用できるサービス▼▽利用者登録(新規・再発行)▽予約資料の貸し出し▽貸し出し資料の返却▽新聞の閲覧▽県立図書館の資料返却 など
資料の予約方法▼村立図書館ホームページまたは電話 ※電話が集中しつながら
にくくなる場合がありますので、ホームページからの予約をお勧めします。

【問い合わせ】村立図書館(☎282-3435)



▲村立図書館HP



▲東海村電子図書館

令和の遠見城発掘の陣

ふるさと歴訪



歴史と未来の交流館 学芸員

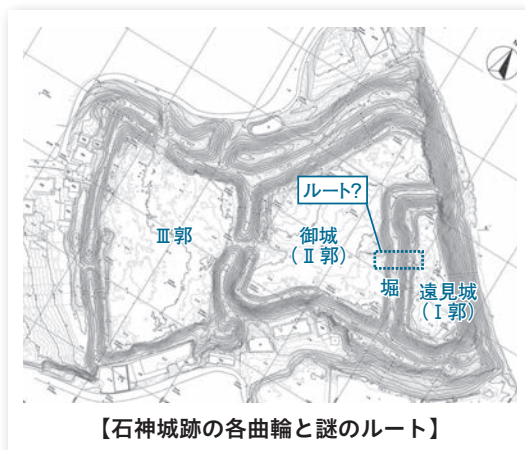
中泉 雄太

石神城跡を訪れた方々の中には、Ⅲ郭から土橋を渡って御城(Ⅱ郭)へと入り、さらに奥の遠見城(Ⅰ郭)へと進むとした際、行く手を阻む深い堀を前に「中世の武士たちは、ここをどのように渡って行ったのか?」と、疑問を感じた方もいるのではないだろうか。実は今、筆者らは、この遠見城へのルートの解明に挑む発掘調査を行っている。

石神城跡の中心部には、遠見城、御城、Ⅲ郭という三つの曲輪があります。最東部の遠見城には、久慈川を臨む東側の縁辺を除いて「コ」字状に土塁が巡り、城であった頃はその直下に旧久慈川が流れていたとされます。

さて、御城から遠見城に至るには、曲輪を分断する巨大な堀を越えなければなりません。どのように越えたかを考えてみると、①曲輪をつなぐ木橋を架けていたか、②今と同じように堀を下って登るルートが存在したか、の二択です。

遠見城西側の土塁を見ると、土塁が一部途切れ



【石神城跡の各曲輪と謎のルート】

た場所があり、従来ここが虎口(出入り口)と考えられてきました。今回は、この出入り口に向かって橋を架けていたと想定し、遠見城の虎口仮説地を発掘して橋の手掛かりを追いました。

調査の結果、重要な発見が二つありました。一つは、虎口と想定した場所で門の跡を発見したこと。このことにより、この場所が遠見城の出入り口であることが確定しました。もう一つは、虎口に続く堀の斜面で二つの小さな穴を発見したことです。現時点では、その正体を確定することはできませんが、可能性の一つに橋を支えた柱の跡を考えています。

これらが木橋の痕跡だとすると、御城に向かって一列に並ぶ柱の跡が堀の中や反対側の堀の斜面にも見つかるはず。そこで、令和7年度の調査では御城側を発掘し、引き続き謎のルートの正体に迫ります。

この冬、戦国の世を駆け抜けた石神城跡の真の姿を解き明かす発掘へ、いざ出陣。



東海村発足70周年
最新情報はこちら



▲70周年記念
公式X